2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

氏名	笹月桃子	職名	准教授	学位
----	------	----	-----	----

研究分野	研究内容のキーワード
小児緩和ケア 小児の生命倫理・臨床倫理 医療プロフェッショナリズム・医学教育	小児、生命、倫理、緩和ケア、医学教育、プロフェッショナルリズム

研究課題
<ol style="list-style-type: none"> 「命に関わる治療方針決定に際しての小児科医の思考過程と葛藤」 「看護・福祉・栄養学科の学生のプロフェッショナル アイデンティティ形成に関する調査研究」 「地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究」 「乳房切除術を受けた患者の初回外来日までの就労に対する想いと支援ニーズの検討」 「重篤な病態を抱える子どものきょうだいに対するパフォーミングアーツを活用した支援の検討」 「協同学習を導入した公衆衛生看護の倫理の授業研究」

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> 看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ 疾病学各論：小児科 遺伝看護学 緩和・終末期看護：小児緩和ケア 初年次セミナーⅠ・Ⅱ

- こどもの保健（福祉学科）1・2

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【 看護形態機能学 】

身体の構造と機能について断片的な個別の事象や名称の暗記科目にならないよう、
生命の神秘、命の尊厳についても意識しながら、相互作用や因果関係、連携など流れを把握できるよう
日常生活や医療現場での話も交え、マクロとミクロの視野にて講義を行った。
復習の促しと知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。

授業科目名【 疾病学各論：小児科 】

範囲が膨大なので、疾患名と特徴的な症状の説明を一疾患一枚のスライドにて提示。適宜写真なども
使用して視覚的に捉えやすくなるよう配慮した。対象として、成人との違いも意識させた。
知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。

授業科目名【 遺伝看護学 】

外部講師2名を迎えてのオムニバス講義であった。臨床、実戦からの話が多いことが予想されたため、
それらの話が理解できるよう、基礎的な遺伝学の知識の予習と復習ができるよう配慮した。また、倫理的
な思考や心理的葛藤を経験する分野であり、負担にならないよう、表出の機会を設けた。

授業科目名【 緩和・終末期看護学：小児緩和ケア 】

子どもが亡くなる、という事実に向き合う学習体験の峻烈さに配慮し、前向きなケアの在り方を紹介
し、さらにこのような分野における看護師としての役割ややりがいについても紹介した。

授業科目名【 初年次セミナー I・II 】

初年次セミナーI

- ① スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の修得は、ミニレポート作成からレポート作成へとレベルをあげ段階をおってすすめた。レポート作成にはグループ学習を取り入れ、学生間でコミュニケーションをとり意見交換しながら取り組むようにした。
- ② 毎回の講義の概要や疑問点・調べたことなどを 500 字程度にまとめさせた。また、学修ポートフォリオを作成させ、主体的学習を促すとともに学修の達成状況をチェックした。
- ③ 学習修得に向けモチベーションの向上を目指し、学外の実習施設(医療機関)から実習指導者を招き講演をしていただいた。
- ④ 科目の評価視点は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示し説明を加えた。各自に印刷物として配布した。
- ⑤ 情報倫理や図書・文献の検索法などの講義は、情報課および図書課と連携し行なった。
- ⑥ 本科目は 10 名の教員で担当する科目である。詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容及び成績評価に差が出ないようにした。

初年次セミナーII

- ① 初年次セミナー I で学修した基礎的知識・スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。
- ② 個人ワーク、グループワークを取り入れた演習を行なった。具体的には、グループで一つの課題に取り組み、章立てし、各自が一つの章を担当して一つの冊子づくりを行なった。冊子づくりを行なうことで、各自が全体を把握しながら自分の担当に責任をもち取り組むことができたと考える。
- ③ さらに、上記冊子にまとめた内容について、レジュメ作成、パワーポイント作成、発表原稿作成を行ない、プレゼンテーションをさせた。課題発見から発表までの一連のプロセスをグループで取り組むことで、他者の意見を

聞き、自分の考えを述べる機会となり、スタディスキルズ（聞く、考える、討論する）の強化につながった。また、司会・進行など経験させることで、役割意識をもたせた。

- ④ 評価は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示して説明を加えた。学生は自己評価を行ない、自己の振り返りを行なうことができていた。
- ⑤ 本科目は 10 名の教員で担当する科目である。初年次 I 同様に詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容および成績評価に差がでないようにした。さらに、プレゼンテーションでは、教員 2 名～3 名で評価を行なうことで、評価に差がでないようにした。

授業科目名【 こどもの保健1、2 】

1：こどもにみられる代表的な疾患について、画像や動画などを用いて、なるべくわかりやすく、なじみやすいように工夫をした。

2：緊急時の対応について、特に食物アレルギーへの対応については実際の医療機器を使用して実践実習を行い、知識の定着を強化した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本小児科学会	日本小児科学会専門医	
日本小児神経学会	第 5 8 回日本小児神経学会学術大会 実践教育セミナー企画責任者	
	第 5 9, 6 0 回日本小児神経学会学術大会 実践教育セミナー及びシンポジウム企画責任者	
日本重症心身障害学会		
日本小児血液・ガン学会	緩和ケア等事業委員会委員（教育研修委	

日本緩和医療学会	員) 「小児科医のための緩和ケア教育プログラム CLIC」ファシリテーター	
日本生命倫理学会	将来構想委員会 小児緩和ケア WPG 員 第 29 回日本生命倫理学会年次大会 シンポジウム企画	
日本臨床倫理学会	臨床倫理認定士	

2018年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

		2018.12.8	第30回日本生命倫理 学会年次大会	
		2018.12.15	第5回初心者のための 小児循環器セミナー	
		2019.2.3	日本緩和医療学会緩和 ケアチームのための小 児緩和ケア教育プログ ラム CLIC-T	
		2019.3.6	筑波大学小児科講演	
		2019.3.9	第41回九州地区重症心 身障害研究会	
		2019.3.27	福岡市立こども病院	

			臨床倫理カンファレンス	
--	--	--	-------------	--

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学 外者	交付決定額 (単位：円)
1. 「看護・福祉・栄養学科の学生のプロフェッショナルアイデンティティ形成に関する調査研究」	本学附属研究所 研究費	○笹月桃子、通山久仁子、高橋甲枝、 手嶋英津子、(濱田裕子、松岡真里)	201,600 円
2. 「地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究」	本学共同研究費	○谷川弘治、今村浩司、吉原悦子、樋口真己、笹月桃子	307,600 円
3. 「乳房切除術を受けた患者の初回外来日までの就労に対する想いと支援ニーズの検討」	本学附属研究所 研究費	○高橋甲枝、笹月桃子、大嶋満須美、 (後藤元子)	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

--	--	--	--

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
倫理審査委員 研究推進委員 看護学科一年アドバイザー